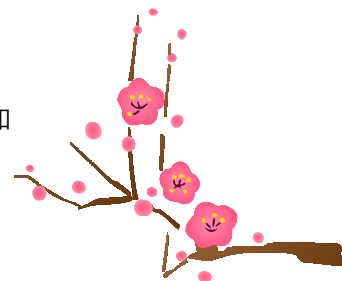


生き生き政治ネット 2021年度 活動報告・会計報告

活動報告 (2021年1月～12月)

- 1月24日 学習会「5G(第5世代移動通信システム)の健康への影響について」
- 2月 7日 議会に女性をおくる会「コムズフェスティバル」(収録)
- 14日 政治カフェ「コロナについて語ろうⅠ」
- 3月11日 伊方原発いらぬ！3・11愛媛集会&デモへ参加
- 5月 3日 えひめ憲法集会へ参加
- 16日 政治カフェ「コロナについて語ろうⅡ」
- 6月23日 沖縄慰霊の日スタンディング(松山市駅前)へ参加
- 8月 8日 学習会「長野県の脱炭素未来ビジョンから学ぶ」
- 9月17日 伊方原発再稼働許さない！9・17集会へ参加
- 10月 2日 政治カフェ「コロナについて語ろうⅢ」
- 11日 伊方原発再稼働を許さない！10・11行動へ参加
- 24日 高齢社会をよくする女性の会全国大会in松山へ参加
- 11月28日 辺野古ブルーアクション(松山市駅前)へ参加
- 12月 1日 伊方原発再稼働反対行動へ参加
- 20日 愛南町風車視察
- 23日 風車裁判松山地裁判決報告会へ参加
- 25日 県議会報告会



年4回(2月、6月、9月、12月)の愛媛県議会定例会の開催ごとに、傍聴のご案内をしています。

会計報告 (2021年1月1日～2021年12月31日)

会費カンパをありがとうございました。

(単位:円)

収入		支出	
前年度繰越	258,781	人件費	629,665
会費・カンパ	627,089	備品・消耗品費	239,168
武井特別会費	1,500,000	事務所費	409,523
		組織活動費	53,990
		機関誌発行費	529,366
		調査研究費	6,700
		その他	1,000
		次年度繰越金	516,458
合計	2,385,870	合計	2,385,870

- * 「生き生き政治ネット通信」発行(4月、8月、11月、1月)
- * 世話人会の開催(毎月1回)
- * 生き生き政治ネットメール通信で情報発信(適宜)
- * 『人新世の「資本論」』読書会 月1回 第4木曜日

お知らせ



- ❖ 安保法制(戦争法)の廃止を求める愛媛の会 総会・記念講演
2月11日(金、祝日) 13:30～ コムズ会議室5
講師: 井口 秀作さん(愛媛大学教授)
- ❖ 「さよなら! 一強政治」 議会に女性をおくる会 総会記念講演会
2月13日(日) 13:30～ コムズ会議室5 講師: 三井マリ子さん
- ❖ 伊方原発運転差止訴訟 第28回口頭弁論
2月24日(木) 14:30 開廷 松山地裁
報告集会 15:30頃～ R-2番町ビル5F
- ❖ 「日米の『中国包囲網』は琉球弧に何をもちたらすか」市民の広場 緊急集会
2月26日(土) 13:30～ コムズ大会議室
講師: 山城ヒロジさん、高井弘之さん
- ❖ 伊方原発の廃炉を求める3・11愛媛集会&デモ
3月11日(金) 17:30～ 坊っちゃん広場
- ❖ 「原発事故から12年目 過去といま、未来を考える」3・13記念講演会
3月13日(日) 13:30～ コムズ大会議室
講師 吉田千亜美さん(ジャーナリスト)



生き生き政治ネット

松山市衣山2-4-47、2F
TEL/FAX 089-924-2485
ikiiki@cnc.e-catv.ne.jp
2022年2月1日発行

12月議会一般質問



寒中お見舞い申し上げます。

2022年も1カ月たってしまいましたが、今年もよろしくお祈りします。いつも「県議会報告」、「生き生き政治ネット通信」等を送らせていただき、ありがとうございます。

新型コロナウイルス感染症が流行し、3年目を迎えようとしています。長引くコロナ禍で、皆さまの生活に様々な影響が及んでいることと思います。昨年、女性を中心にアンケートを実施したところ、経済的な影響もあります。家族や職場でもコロナやワクチンについて認識が異なり、会話一つにも

気を使うという息苦しい空気が漂っていることを知りました。また、お見舞いや面会もままならない、故人とのお別れにさえ行けないような非日常がストレスにならないはずはありません。どうか心身の健康にくれぐれもご留意されますように。一日も早いコロナの収束を願います。

2022年は選挙イヤーです。4月松山市議会議員選挙、7月参議院選挙、11月愛媛県知事選挙、松山市長選挙と続きます。なかなか投票率が上がらず、政治への関心の薄れを残念に思うところですが、教育や福祉、環境など、私たちにとって重要な方針や私たちの納めた税金の使い道を決める選挙です。皆さまが日々感じている問題を政策に照らし、ぜひ、投票行動に繋げていただきたいと思います。

今回、春の市議選にあたって私と同じく無所属・市民派で活動している、実力派 梶原時義さん、猛進派 たぶち紀子さんを紹介させていただきます(リーフレットや市議会報告を同封しています)。賛成ばかりで異論や議論の少ない松山市議会に風を吹かせる方たちです。

武井 たか子

生き生き政治ネット(武井たか子を支える会)とは

政治は暮らしに深く密着したもので、私たちの生活を良くするも悪くするも政治次第。そして、その政治は、私たち市民一人ひとりがつくるもの。

「生き生き政治ネット」は、市民の立場で政治に取り組む武井たか子(愛媛県議)とともに、対等な立場で協力し合い、生き生き暮らせる社会の実現をめざしている会です。

皆さまのお声を是非お聞かせください。疑問に思うこと、困った問題、いっぱいあると思います。語り合い、学びあい、政治に反映させていきましょう。「政治カフェ」や「議会報告会」や学習会などを開いています。どうぞご参加ください。

今回、「生き生き政治ネット通信」をお送りするにあたり、郵便振替用紙を同封させて頂いています。コロナ禍で大変なときに心苦しいのですが、ご無理のない範囲で結構です、当会への会費・カンパのご支援をよろしくお願いいたします。

事務所は月曜から金曜の10時～16時に開けています。ご相談の方は事前にご連絡ください。

学習会 「デジタル改革関連法で、個人情報はどうなる」に参加して

講師の三木由希子さん
(2022年1月10日)コメント



CMで、マイナンバーカードを作ると2万円還元！ とか便利になる！ という宣伝をよく見る。でも、個人情報流出事件や消えた年金事件など適切な情報管理への不安や、映画「新聞記者」の一場面のように政府による監視の強化という疑惑が拭えない。

今回、三木由希子さん(情報公開クリアリングハウス理事長)の学習会では、デジタル改革が2040年の少子高齢化のピークを見据え、一人ひとりの状況をよく把握・管理・集積し、児童手当など様々な公的給付金の“手

続き”の利便性の向上を目指していること、行政サービスの質が上がるわけではないことを知った。

また、個人情報について、自治体は、個々の市民の暮らしに関わるため人権の視点で条例を制定し保護してきたが、今後は、自治体独自の条例は事実上廃止となり、人権の視点に疑問のある国の規定を適用させられる。本人からの直接収集原則とセンシティブ情報(要配慮個人情報)の収集禁止原則がなくなり、オンライン結合の原則禁止も廃止されると伺った。昨今、自衛隊募集の案内が個々の高校生宅に名指しで郵送されていることにモヤモヤしていたが、事実上の個人情報利用の規制緩和に不安が募る。

今回のコロナ下において、日本社会でも職場や学校をはじめオンライン化がぐっと進んだ。特にデジタル化が進む台湾では、「ブロードバンド(高速大容量のデータ通信が可能な回線)にアクセスする権利を基本的人権の一つと位置づけ、デジタルインフラを整備し、政府と市民の双方向の交流を深める『デジタル民主主義』が大切にされ、デジタル技術はあくまでも民主主義を支えるもの」と、デジタル担当相のオードリー・タンさんは話している。

日本社会もデジタル改革の方向を見直すとともに、そもそも“手続き”をする権利すら奪われている人々(生活保護需給のハードルの高さ、介護保険利用料が高く使えない、戸籍がない人等々)の救済への議論と政策実現に向かうべきだと思った。

木下 啓子(四国朝鮮学校市民基金 事務職員)

伊方原発3号機 再稼働に抗議

四国電力は2021年12月2日、伊方原発3号機を再稼働させた。3号機は2019年12月の定期検査で運転を停止して以後、広島高裁の運転差止の仮処分決定や「特定重大事故等対処施設」の工事の遅れのほか、トラブルや不祥事が続いたこともあり、再稼働できない状態が続いていたが、とうとう2年ぶりに運転を再開した。当初10月12日の再稼働を計画していたが、内部告発で保安規定違反の事案が発覚し、12月2日にやっと再稼働にこぎ着けたのだが、1月4日から通常運転再開のはずが、またもやトラブルで、1月24日まで営業運転はさらに延期されたのだ。

四国電力の一連のトラブルや不祥事は、緊張感や責任感の欠如の表れであり、危険な原発を運転する事業者としての資格があるのか、県民は不信感で一杯だ。こここのところ国内だけでなく世界各地で大きな地震や火山噴火が頻繁に起き、原発事故への不安はますます高まっている。避難の困難さ、持って行き場も処分方法も解決できない核のゴミの問題、やはり廃炉しかない。

原発からの撤退、人と自然にやさしい社会の実現を、県や四国電力へ繰り返し訴えていきたい。

奥田 恭子(伊方原発をとめる会)



原子力本部前での抗議行動

「武井たか子の県議会報告会」に参加して

2021年10月の衆院選の際、立ち上げた勝手連での活動がご縁で12月25日、武井県議の議会報告会へ初めて参加させて頂いた。武井さんのお話の後、12年目となったJAL不当解雇撤回闘争の現状報告に貴重な時間を頂いたことにまず感謝申し上げます。

JALと言う外見は華やかで洗練されたイメージの大企業が、その実態は旧態然とした労働組合敵視、人権無視、女性蔑視の日本型経営であることなどをお話し、30分があつという間に過ぎた。飛行機を安全に運航させるということは、パイロットだけでなく整備、運航技術者、貨物搭載やカウンター業務など様々な職種のプロとしての仕事の集大成が必要である。客室乗務員は緊急時にお客様の命を預かっているため、年1回緊急脱出訓練で筆記と実地試験を受けている。しかしパイロットや整備のように航空従事者として認められていないのは、女性が圧倒的に多いことが主な理由だと考えられる。

武井さんたち女性議員が中心となって始められた「女性差別撤廃条約学習会(えひめミモザの会)」に月1回参加し、ジェンダー問題とは何かが解り始めると、客室乗務員として女性が働き続けられる条件を獲得するための闘いと共通点も感じ、確信が深まった。ケア労働と同じように客室乗務員もエッセンシャルワーカーであり、賃金水準と共に十分な労働環境が確保されるべきである。現役の仲間と連帯して運動を続けていきたい。

武井議員のお話にもあったが、愛媛県議会のホームページを見ると女性議員は現在、与党を入れても45名中4名のみ。たった4名では「議会というオヤジの海」(リベラルな男性には失礼!)を泳ぎ続けるのは困難であることは容易に想像される。モトーン議会は面白くない。多様性を表わすカラフルな明るい色に染め変えていくには、しがらみのない女性たちが行動していくしかない。あきらめない小さな行動の積み重ねが社会を良くしていくに違いない。

林 恵美(JAL不当解雇撤回争議団・JAL被解雇者労働組合)



ゲストスピーカー！林恵美さん

議員活動20年目の武井さんに期待するもの



武井さんの県議会議員活動も今年で5年目、松山市議会議員になった2002年から数えると、議員活動も20年目を迎えました。20年前、市民活動のなかから女性議員の必要を感じ、選挙に挑戦することになりましたが、その当時は、「若い・女性・無所属」が武井さんのいわば三枚看板でした。しかし、これは世間では「若い・女性・無所属」、そんなものにながでできる、と思われていたようでした。

そんな出発から20年。今では「若い」に替わって「実績あるベテラン」とアピールするようになりました。しかし、「女性・無所属」であることには変わりありません。しかし、その受け止め方は、近年ようやく大きく変わってきているように思います。議会に女性には必要です。武井さんたち、現実に議員となって活動する女性たちが、女性がいる議会が、いない議会よりもいかによい働きをするかを実証してくれました。

そして「無所属」という3枚目の看板、私は今、この「無所属」であることにも、武井さんの存在の意義を感じています。今、世の中は、日本のみならず世界中、存亡の危機に瀕している、と言っているのではないのでしょうか。環境問題を始めとする様々な問題が、人々の暮らしそのものを脅かし、平和や人権を守ることを危うくしています。もはや、保守とか革新とか、右とか左とか、言っていられない、真に、人が人らしくいられる為の政治が求められています。今、各政党に所属されている人たちも、もはや上意下達の党のための議員ではいられない、一人一人が未来のための方向を探らねばならないときに来ていると思います。そうした心ある人たちを繋ぎ、政治に反映させていく。無所属の自立した議員には、それができます。その必要は今回世界を襲ったコロナ禍のなかで、ますます切実なものになっていると思います。武井さんの今後の活動にも、そうした視点からの活動を期待していますので、皆さん、どうぞ今後とも武井さんの活動を見守り、ご支援ご指導をよろしくお願い致します。

大早 直美(生き活き政治ネット世話人)